クラス	102	担当教員	小　倉　美　津　夫
		テーマ	世界における英語と英語教育を考える
		著書・論文 研究課題等	著書・論文：「グラフで見るアメリカ社会の現実」（学文社）、「表現力を伸ばす英語の指導-Aural-Oral Practice によって」、「英語Iの効果的指導法-4技能のバランスのとれた教科指導」、「自己表現力を高める英語学習指導法改善に関する研究」、「アメリカにおける School Disciplineの研究」等 研究課題：英語教育指導法改善に関する研究、コミュニケーション活動を重視した英語教育指導法、英語教員の成長を促す支援のあり方に関する研究

ゼ ミ ナ ー ル 概 要

キーワード：教育、自己教育力、英語力、外国語学習法、英語教育指導法、英語の 4 技能、プロジェクト型学

目的、内容、方法等：

小学校では平成 23 年から外国語活動（主に英語活動）が全面実施されている。目標は、外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養うことである。これを受けて、中学校では、平成 24 年から新学習指導要領が全面実施になった。科目「英語」では、これまでの週 3 時間から週 4 時間へ、単語数は 900 語から 200 語へと時間数・語彙数とも増加した。主に、英語の 4 技能のコミュニケーション能力の基礎を養うことが目標である。一方、高等学校では平成 25 年度から新学習指導要領が全面実施される。英語科目は全面的に変更され、「コミュニケーション英語基礎」「コミュニケーション英語Ⅰ」「コミュニケーション英語Ⅱ」「コミュニケーション英語Ⅲ」「英語表現Ⅰ」「英語表現Ⅱ」「英語会話」となる。とりわけ、高校だけでなく英語教育界でも取りざたされている「原則として、英語の授業は英語で行う」と規定されていることが現場の教員たちの間でも大きなプレッシャーとなっている。

こうした中で、過去数 10 年の英語教育の歴史において、コミュニケーションを目的とした英語教育は成功していない。その原因は、いくつも考えられる。このゼミを通して、それらの原因を詳細に探り、その解決策を発見・提案し、日本における英語教育の望ましいあり方、あるべき姿を見極めながら、21 世紀の英語教育について研究する。

もちろん、英語によるコミュニケーションを支える文法についても学習を進めながら、文法力の向上と総合的な英語力を高めることも視野においている。

授業計画（スケジュール）：

・文献学習・フィールド調査等、グループ討議や発表を通して、学習を進める。
・テーマ設定：基本的には個人ごとに設定しますが、グループ研究でも構いません。
・ゼミでは、学生による問題提起とディスカッションの機会を多く持ちます。
・場合によっては、ゼミ生全体でひとつのテーマについて研究することもあり得ます。

テキストは適宜紹介します。

担当教員からのメッセージ

英語は“世界共通語”であり、生涯にわたって英語から逃れて生活することはあり得ないと想像します。揺るぎない英語の基礎をしっかり固め、英語の文章を速く読めるようになり、英語で文章をうまく書けるようになり、少しでも英語を使って仕事ができる力を養成するとともに、特に英語教員を志望する人や英語教育に関心のある人たちの協働学習と研究の機会・場です。来たれ、地道に、着実に、勉強を継続できる学生のみなさん！